

活用事例	3 授業中に地震・津波が発生した場合の二次避難場所までの避難訓練 【特色】一次避難場所（校舎三階）から、学校裏手の丘への二次避難		
学校名	山陽小野田市立埴生中学校		
日時	平成25年6月28日（金） 第5校時～		
場所	校舎及び裏手の丘	参加者	生徒・教職員

1 訓練のねらい

- (1) 地震及び津波発生により生徒を緊急に安全な場所に避難させる事態が発生したとき、教職員の指示のもとに安全に避難する方法を確認するとともに、迅速かつ冷静に行動できる能力を身に付ける。
- (2) 津波到来までの時間の余裕をみて、より安全な二次避難場所への避難を実施することにより、経路・場所を実地に確認するとともに、安全への意識を高める。
- (3) 緊急地震速報により、速やかな避難行動に移ることができるようにする。
- (4) 状況に応じて、二次避難場所への避難行動につなげるとともに、実際に二次避難場所への避難訓練を行う。

2 訓練の概要

- (1) 緊急地震速報を想定した地震に備える行動の訓練
放送により、緊急地震速報発令の状況を伝え、速やかに地震に備えて机の下等で頭部を保護できるよう行動する。
- (2) 地震発生後の津波発生を想定した一次避難場所への避難行動訓練
標高がある程度高く、耐震補強が終了している校舎3階を一次避難場所として避難を実施する。新しい情報を収集する。
- (3) 二次避難場所への避難訓練(学校裏手の丘、海拔22m)
常に正確な情報把握に努め、津波到達までに10分以上あれば、安全を期して、二次避難場所へ避難行動を起こす。より安全な避難場所を確保する。

(4) 訓練の実際

ア 訓練の事前指導

- 東日本大震災の状況にふれ、適切な避難が生死を分けるなど、避難訓練の重要性をしっかりと説明する。
- 訓練に臨む心構え、態度の指導を徹底する。
- 避難においては、自助とともに自分たちができる共助についても考えさせ、人命の大切さについてふれる。
- K Y Tによる地震対応の避難行動学習の実施
- 避難経路及び避難場所の確認（一・二次避難場所）

イ 訓練の開始〈放送の指示〉

クンレン警報 クンレン警報

「緊急地震速報が発令されました。地震による強い揺れが予想されます。机の下に潜ってください。」(頭部の保護)1分間

ウ 緊急地震速報

適切な対応行動を取る。(机の下に潜る。)
ゆれに備えて、転倒しやすい棚や落下物を避け、しっかりと頭部を保護する行動をとる。(机以外の方法も教職員が示す。)
対応行動を継続する。(揺れが続く間)



エ 津波に備えた避難行動(一次避難)

クンレン クンレン

- 1 大規模な津波発生対応のための一次避難場所への行動訓練を行います。
- 2 1・2年生はそのまま待機、3年生は3階被服室前に速やかに避難してください。

※ 一次避難場所としての校舎3階への避難行動を行う。

オ 津波に備えた避難行動(二次避難)

クンレン クンレン

- 1 1・2年生は西階段から体育館通路を通って、3年生は東階段を使い、生徒昇降口から出て、格技場横フェンス扉から二次避難場所へ避難してください。
- 2 各クラス総務委員が先導し、教職員は最後尾についてください。

カ 二次避難行動

事前に予定された避難場所に整然と避難を行う。



キ 二次避難場所到着と、より安全な避難場所への避難行動

3 訓練の成果と課題

【成果】

- ◇ K Y Tを活用するなど事前指導による避難行動の指導の徹底ができ、様々な避難行動の共通する内容を指導できた。
- ◇ 緊急地震速報による地震への備えについて、確認と訓練ができた。
- ◇ 避難行動を実際に行い、二次避難場所への実地訓練を実施できたことで、地震が発生した場合の避難行動の確実性が増した。

【課題】

- ◆ 教職員の指示が得られない場合の判断や行動について、今後の訓練の中で実施していきたい。ブラインド方式の訓練は、次回の火災訓練に於いて実施予定としている。
- ◆ 生徒はまじめに取り組んでいるが、地震被害の少ない地域に居住しているため、切実感が足りない状況は否めない。